

JILPT 資料シリーズ

No. 56 2009年6月

オーストラリアの労働市場の課題



独立行政法人 労働政策研究・研修機構
The Japan Institute for Labour Policy and Training

オーストラリアの労働市場の課題

まえがき

オーストラリアは1990年代初頭の経済不振を克服後、過去15年以上にわたって経済のプラス成長を実現し、失業率も史上最低を更新するなど、OECD諸国のなかでも良好な経済的パフォーマンスを示す代表的な国である。この背景のひとつに規制緩和を基調とする労働市場改革を通じた労働市場の柔軟化があげられている。しかし一方で、セーフティネットの喪失や不安定雇用の増大、所得格差の拡大なども懸念されている。このため、オーストラリアの労働市場改革の経験は、今後のわが国の労働政策のあり方を考える上で大きな示唆を与えるものと思われる。

こうした考えから当機構では2006年から3年計画でオーストラリア国立大学（ANU）の豪日研究センター（Australia-Japan Research Centre）と「日本とオーストラリアの労働市場比較」をテーマに国際共同研究を実施した。同研究ではANU・AJRCとの協議を踏まえ、①労働市場の最近の動向、②労働時間、③経済改革と所得格差、④高齢化対策、⑤若年労働者の非正規化問題などを中心として日豪双方がそれぞれの労働市場に関する研究を進め、この成果を持ち寄って議論を重ねることにした。

本報告書はこの共同研究のオーストラリア側の成果を翻訳してとりまとめたものである。共同研究の過程では、ここで取り上げたテーマ以外にも、労働の非正規化、貿易と労働市場、技術革新と雇用のミスマッチ、公的部門改革と労働市場、移民労働者政策などについてそれぞれの研究成果をもとに議論した。

なお、ここに集録した各論文は、2008年秋に発生した世界的な金融危機以前にとりまとめられており、したがって金融危機が労働市場に与えた影響については言及されていないことに留意されたい。

本報告書が今後の日本の労働政策に関する研究の一助となれば幸いである。

2009年5月

独立行政法人 労働政策研究・研修機構
理事長 稲 上 毅

本報告書の構成について

本報告書に収めた論文は、当機構（JILPT）とオーストラリア国立大学（ANU）の豪日研究センター（Australia-Japan Research Centre）が実施した国際共同研究「日本とオーストラリアの労働市場比較」に関するオーストラリア側の論文を翻訳したものである。

当機構と ANU・AJRC の共同研究は 2006～2008 年に実施した。

共同研究では ANU・AJRC と協議を重ね、双方の関心事項を調整した結果、①少子高齢化対策、②労働の非正規化、③貿易と労働市場、④技術革新と雇用のミスマッチ、⑤経済改革と所得格差、⑥公的部門改革と労働市場、⑦移民労働者政策、⑧若年労働者の非正規化問題、⑨労働時間などをサブ・テーマとして取り上げることにした。

共同研究の方法は、日豪双方がこれまでの研究成果をとりまとめ、これを持ち寄って議論を重ね、比較検討することで合意した。これに基づき、双方が各サブ・テーマについてドラフト・ペーパーをまとめ、2007年の3月と7月の2回、いずれもキャンベラで研究会議を開いて意見交換した。この結果を踏まえて、双方がそれぞれ最終的なペーパー（英文）をとりまとめた。

共同研究の参加者は、オーストラリア側は ANU・AJRC 所属の研究者にとどまらず、他の研究機関に所属する研究者が広く参加した。また、日本側も JILPT の研究者に加えて、オーストラリアに関心の高い研究者に参加を依頼した。

本報告書に集録したのは、このオーストラリア側の最終ペーパーのうち、とくに日本側の関心が高かった①労働市場の最近の動向、②労働時間、③所得格差、④高齢化、⑤若年労働者問題、の5テーマの翻訳である。翻訳は当機構国際研究部が行った。英文による報告書は ANU・AJRC の責任においてとりまとめられる計画である。

共同研究に参加した日本側の研究者等は以下のとおりである。

松繁寿和（大阪大学教授）、川口章（同志社大学教授）、岸智子（南山大学教授）、後藤純一（神戸大学教授）、石井久子（高崎経済大学教授）、勇上和史（神戸大学准教授）、平田周一（JILPT 主任研究員）大谷剛（JILPT 研究員）坂井澄雄（国際研究部次長）。（所属はいずれも 2009 年 3 月現在）

目 次

まえがき

第1章 労働市場改革の推移	1
1. はじめに	1
2. 労働市場政策の推移	1
3. 構造改革	7
4. 労働市場改革	11
5. 今後の課題	18
第2章 労働時間の動向	23
1. はじめに	23
2. 労働時間の現状	23
3. 労働時間のミスマッチ	26
4. 週労働時間と年間労働時間	30
5. 国際比較	31
6. まとめ	35
第3章 所得格差・セーフティネット・労働市場	39
1. はじめに	39
2. ソーシャル・セーフティー・ネットと労働市場	39
3. 所得増加と格差	44
4. 所得格差と貧困	47
5. まとめ	52
第4章 高齢者の労働力率と年金制度：豪日比較	55
1. はじめに	55
2. 人口動態統計の比較	56
3. 退職後の所得保障	60
4. 労働力率への影響	65
5. 新たな政策的取り組み	67
6. 労働市場と退職	70
7. まとめ	72
第5章 若年者の労働市場と教育	75
1. はじめに	75
2. 労働市場への参入	76

3. 進学	78
4. 若年層の賃金.....	80
5. 就業、心理的資本、幸福感.....	84
6. まとめ.....	87
執筆者一覧.....	91